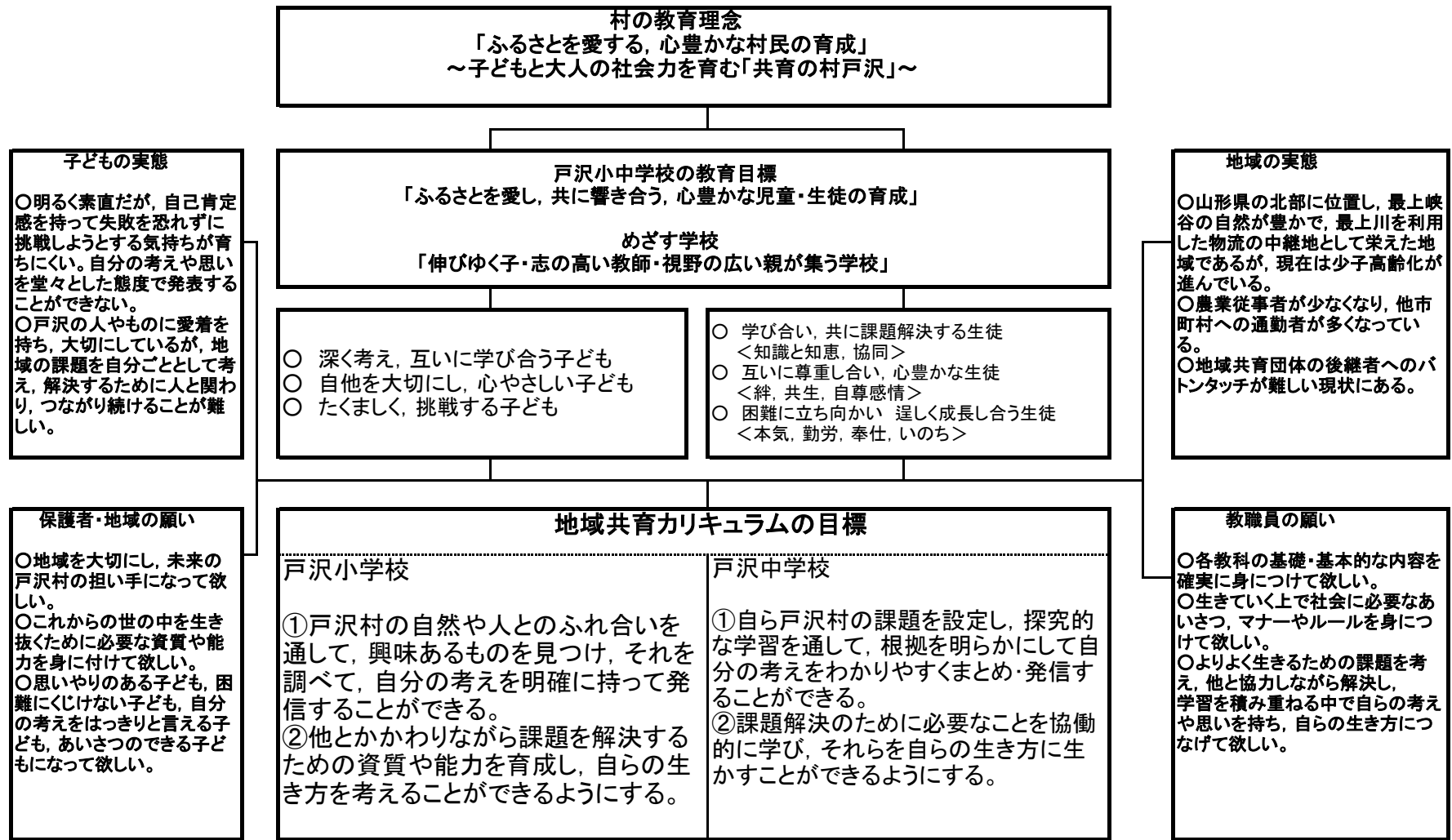


地域共育カリキュラム

令和2年度 戸沢小中学校 地域共育カリキュラム（総合的な学習の時間）全体計画



地域共育カリキュラムで育てたい力

○体験を通して自然や人や社会にかかわり、見つけた課題を自分事としてとらえ、仲間とともに主体的・協働的に解決しようとする意欲を育てる。
 ○課題解決のために、各教科で身に付けた知識や見方・考え方、技能を総合的に働かせ、粘り強く探究したことを発信させる。
 ○課題の探究を通して学ぶことの意味や自らの生活について考えを深め、学んだことを将来の生き方につなげて考えさせる。

○小学校で身につけた知識及び技能をもとに、新たな視点を持ち、協働的に解決しようとする意欲を育てる。
 ○教科横断的な学習や体験を生かして課題を解決し、根拠を明らかにしてまとめ・発信させる。
 ○探究的な見方・考え方を働かせ、持続可能な社会を実現するための行動の仕方や自己の生き方を考えさせる。

学年	小学3年	小学4年	小学5年	小学6年	中学1年	中学2年	中学3年
学習テーマ	戸沢を感じて・知る		戸沢について考え・伝える		戸沢を知る (地域を再発見)	戸沢に学ぶ (地域へ参画)	戸沢の未来を考える (地域へ発信)
探究課題	地域の自然とそれを守る人々	地域の環境と保全に関わる人々	地域の産業とそれに携わる人々の思いや願い	地域の未来と自分達の生活	地域の「ひと」「もの」「こと」の特徴や魅力と、それに関わる人々の思いや願い ※小学校時の学びを振り返り、地域の自然・産業・文化等の持つよさや課題を再発見する。	地域の「ひと」「もの」「こと」を生かしたまちづくり、地域活性化のあり方 ※地域活性化にかかわる取組を通して社会に参画し、自己の生き方について考える。	地域の「ひと」「もの」「こと」のよりよい未来に向けた実現可能な取組のあり方 ※これまでの学びを生かした地域の人々と協働する活動を通して、今後の生き方について考え、行動する。
各学年の内容 学習対象	自然・人・社会(歴史的建造物見学や伝承文化の体験) ・村内の巨木 ・戸沢・神田・古口・角川の歴史的建造物 ※生活科・社会科からの「うちの周り」を既習・横断的な学習として活用。	自然・人 ・最上川 ※モコモゴミスターズを通して最上川周辺の環境について理解を深める。	自然・人・社会 ・地域の産業やその取り組み(米作り・伝承野菜作り・工業) ・それに携わる人々 ※社会科での「米作り」単元を横断的な学習として活用。	人・社会 ・企業 ・議会 ・役所 ・その他の施設 ・関連機関 ・修学旅行で訪れた地域	地域の文化・「民話」「伝承行事」「文化財」「伝統芸能」等 地域の自然・「河川・湖沼」「山・森林」「動植物」等 地域の歴史・「地域を支えた人々」「歴史的建造物」「遺跡」等 地域の産業・「農林水産業」「伝統工芸」等 その他地域探究にかかわる「ひと」「もの」「こと」全般		
発信対象とその時期	小学校2年生(保護者等) 1～2月	小学3年生(保護者等) 1～2月	小学4年生(保護者等) 1～2月	小学5年生 中学2年生(保護者等) 1～2月	小学5年生6年生 中学2年生(保護者等) 1月～2月	小学6年生 中学1年生(保護者等) 1月～2月	小学5年生6年生 中学1年生2年生(保護者等) 11月までに実施

学習活動
 ・地域の実態、生徒の実態を踏まえ探究課題を設定する。
 ・地域の人、素材を生かした学習活動を行う。
 ・それぞれの学年で学習成果を表現する場を年間計画に位置づける。
 ・年間1テーマでの取組を基本とする。

指導方法
 ・生徒の課題意識を連続、発展させる支援と工夫を行う。
 ・個に応じた指導の工夫を行う。
 ・体験活動を重視する。
 ・各教科等との関連を重視した指導を行う。
 ・言語により整理分析したり、まとめ・表現したりする学習を重視する。
 ・協働的な学習を充実させるため、思考ツールを積極的に活用する。

指導体制
 ・地域コーディネーターを介して地域指導者との打ち合わせを密にしながら進めていく。
 ・全校指導体制を組織する。
 ・運営委員会における校内の連絡調整と指導体制を確立する。
 ・ワークショップ研修を重視する。
 ・ICT機器及び地域指導者の整備・充実を図る。
 ・地域の教育資源をデータ化する。

学習の評価
 ・ポートフォリオを活用した評価の充実を図る。
 ・個人内評価を重視する。
 ・指導と評価の一体化を充実する。
 ・授業分析による学習指導の評価を重視する。
 ・期末、学年末には指導計画を評価・改善し、次年度の計画に生かす。